

文京区補助金等チェックシート

所属 保健衛生部生活衛生課

1 補助金の名称等

26年度調査

補助金の名称	文京区飼い主のいない猫の去勢・不妊手術助成金									
根拠規定等	文京区飼い主のいない猫の去勢・不妊手術実施要綱									
創設年月	平成	3	年	5	月	経過年数 〔自動計算〕	22年	終了予定年月		
直近の見直し年月	平成	22	年	4	月	経過年数 〔自動計算〕	4年			
見直しの内容	全額補助(抽選にて年間60匹)から助成金(年間300匹、雄:15,000円、雌:25,000円、妊娠雌:30,000円を上限とする)に変更した(平成21年度)。その後年間実施数を500匹に変更(平成22年度)した。									
予算科目	6衛生費		1保健衛生費		2生活衛生事業費		8動物の愛護及び被害防止		1動物との共生社会支援事業	132
補助金の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 奨励的補助 <input type="checkbox"/> 施設運営補助 <input type="checkbox"/> 扶助的補助 <input type="checkbox"/> 投資的補助 <input type="checkbox"/> 利子補給									

2 補助金の概要

補助目的	区民の快適な生活環境の保持及び動物愛護思想の普及を図る。										
補助事業等の内容	区の区域内に生息する飼い主のいない猫に対し、区民が動物愛護の精神に基づいて行う手術に係る費用の一部を助成する。										
補助対象経費の内容	手術に要した費用とし、雄:15,000円、雌:25,000円、妊娠雌:30,000円を上限とする。										
補助事業者等	<input checked="" type="checkbox"/> 区民 <input type="checkbox"/> 地域活動団体 <input type="checkbox"/> NPO(特定非営利活動団体) <input type="checkbox"/> 事業者 <input type="checkbox"/> その他 [特定の相手方に補助している場合は具体的に記入]										
補助金の算出	<input type="checkbox"/> 定率 (補助率) <input checked="" type="checkbox"/> 定額 (補助額) <small>雄猫一匹あたり15,000円 雌猫一匹あたり25,000円 妊娠している雌猫一匹あたり30,000円</small> <input type="checkbox"/> 補助単価 (補助単価 単位) <input type="checkbox"/> 規定なし <input type="checkbox"/> その他 [その他の場合は具体的に記入] [定額又は補助単価の場合は金額設定の考え方を具体的に記入]										
公募の状況	ホームページ、区報、チラシの窓口配布等										
実績報告書時における 用途の確認方法	<input type="checkbox"/> 領収書(写し) <input type="checkbox"/> 契約書 <input type="checkbox"/> 決算書 <input type="checkbox"/> 成果物 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (手術後写真の貼付)										
補助・単独の状況	<input type="checkbox"/> 区単独		負担割合		区 1/2		国		都 1/2		補助対象者
	<input type="checkbox"/> 補助(区上乗せ無し) <input checked="" type="checkbox"/> 補助(区上乗せ有り)		上乗せの内容・理由		年間手術費用の都補助金額上限1,030,000円(実施金額の半額補助)に対し、区では10,750,000円の予算を計上。						

3 補助金の交付の適否に関する基準〔A:適合している、B:適合していない、C非該当〕

項目	内 容	判定	判定の理由
必要性 (公益性)	補助事業等が、社会情勢や区民ニーズに適合しているか	A	飼い主のいない猫の増加によるふん尿被害やさかりによる鳴き声の騒音は社会問題となっている。
	基本構想、実施計画、個別計画等の区の政策に適合しているか	A	基本構想実施計画事業に選定されている。
	区と区民等の役割分担の中で、区が補助すべき事業であるか	A	所有者のいない猫が対象であるため、区の役割として手術費用の助成をするのが妥当。
	実施しなかった場合に大きなマイナスの影響が生じるか	A	猫は年に数回出産するため、個体数が増加しそれに伴うふん尿被害等も増加すると考えられる。
公平性	補助要件に該当する補助事業者等であれば、誰でも補助金の申請をする機会が確保されているか	A	飼い主のいない猫の手術を希望する区民なら誰でも申請可能である。区報・チラシ等により広く公募を行っている。
	交付先は適正な手続きによって決定されているか	A	交付要綱に基づき、要件を審査の上、適正に決定してする。
効率性 (有効性)	補助金の交付以外の代替策はないか	A	エサやりをしている区民や猫の生態に精通している区民が捕獲するのが一番効率的である。
	補助金の交付による効果が認められるか	A	猫の出産やふん尿被害、鳴き声の苦情が減少してきている。
	補助金額に見合う具体的効果が認められるか	A	猫の出産やふん尿被害、鳴き声の苦情が減少してきている。
	事業実施の効果が広く区民に還元されているか	A	猫の出産やふん尿被害、鳴き声の苦情が減少しており、区民の快適な生活環境に寄与している。
適正性 (適格性) (妥当性) ※個人等の補助金 については 不要	法令等に抵触していないか		
	団体等の活動内容が補助目的と合致しているか		
	団体等の会計処理や補助金の使途が適正か		

4 交付実績

(件、千円)

項目	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(決算)	27年度(予算)
交付(見込み)件数	502	510	521	500
決算(予算)額	10,715	10,680	10,750	10,750
国庫支出金	0	0	0	0
都支出金	1,030	1,030	1,030	1,030
その他	0	0	0	0
一般財源	9,685	9,650	9,720	9,720
26年度補助事業等の状況 (交付団体名、成果等)	飼い主のいない猫521匹(雄猫245匹、雌猫240匹、妊娠雌猫36匹)の不妊・去勢手術に対し助成金を交付した。			

5 課題及び今後の方向性

雌猫は1年に3回程度妊娠可能であること、糞尿被害の苦情もあることから、引き続き去勢・不妊手術による繁殖抑制をしていくことが必要と考える。